

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校 東京自動車大学校		平成2年3月23日		小倉 基宏		〒 125-0002 (住所) 東京都葛飾区西亀有3-28-3 (電話) 03-3601-2535		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 小倉学園		昭和56年12月24日		小倉 基義		〒 379-2215 (住所) 群馬県伊勢崎市赤堀今井町1-581 (電話) 0270-62-0167		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	自動車整備専門課程		自動車整備科 1級整備士コース後期課程		平成19(2007)年度	-	平成27(2015)年度	
学科の目的		実践かつ専門的な職業教育をおこない、関係企業・団体等のニーズを反映した自動車整備技術や知識を修得させる。また、社会貢献ができる人間性豊かで優秀な自動車整備士を育成することを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		■取得可能な資格: 1級小型自動車整備士、2級2輪自動車整備士、2級シャシ自動車整備士 ■中退率 5.9%(6名)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,136.2 単位時間 単位	681.4 単位時間 単位	22.4 単位時間 単位	1,401.6 単位時間 単位	25.2 単位時間 単位	5.6 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
240 人	112 人		1 人		1 %			
就職等の状況		■卒業者数(C) : 52 人 ■就職希望者数(D) : 45 人 ■就職者数(E) : 45 人 ■地元就職者数(F) : 45 人 ■就職率(E/D) : 100 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 87 % ■進学者数 : 6 人 ■その他 : 人 自己開拓 (令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 自動車ディーラー、メーカー						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体 : 受審年月 : 評価結果を掲載したホームページURL				無			
当該学科のホームページURL	http://www.taus.ac.jp							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A: 単位時間による算定) 総授業時数 2,137 単位時間 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 288 単位時間 うち企業等と連携した演習の授業時数 0 単位時間 うち必修授業時数 2,137 単位時間 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 288 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 0 単位時間 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 0 単位時間 (B: 単位数による算定) 総授業時数 単位 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した演習の授業時数 単位 うち必修授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 単位						
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) 28 人 ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 5 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 0 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人 計 28 人 上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 28 人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は、自動車に関する知識・技術を修得した確かな人格を有する自動車整備士養成に努め、国内自動車販売業(自動車ディーラー)のサービス要員を中心に広く自動車関連産業に有為な人財の育成・輩出を通じ活力ある社会づくりに貢献してきた。今後もその社会的使命を踏まえて更なる教育の質保証・向上を図るため、関係企業・団体、教育有識者の協力を得た教育課程編成委員会の設置・活動を通じ、適切かつ効果的な教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は別添規程のとおり、校長の諮問機関の委員会として機能し、校長に報告された審議内容等は、必要に応じて管理職部長会議などでの議論も踏まえ校長が決裁する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
國分 秀貴	いすゞ自動車首都圏(株)	R6.5.1～R8.4.30	③
出井 裕	日本大学理工学部 航空宇宙工学科	R6.5.1～R8.4.30	②
中村 真	日産自動車販売(株)	R6.5.1～R8.4.30	③
藤田 幸司	東京自動車大学校 校長代行	R6.5.1～R8.4.30	—
三田寺 秀高	東京自動車大学校 副校長	R6.5.1～R8.4.30	—
高橋 章	東京自動車大学校 事務長	R6.5.1～R8.4.30	—
山口 政行	東京自動車大学校 教育部長	R6.5.1～R8.4.30	—
高橋 章	東京自動車大学校 事務長	R6.5.1～R8.4.30	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年7月18日 16:00～17:30

第2回 令和8年3月3日 16:00～ 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

■意見:

自動車の技術が進歩していく中で、自動車整備専門学校での教育内容も変えていく必要がある。しかし、自動車の基本は変わらないので、基本的な内容は学校でしっかりと教育してほしい。古くなった内容を減らし新しいことを入れていく際には、減らす内容を慎重に吟味してほしい。取得する資格などについても同様で、必修で受験していたものを希望制に変更したりするケースも出てくると思われるが、資格は一生ものなので、学生のうちにできるだけたくさん取得させてほしい。

◆活用状況

今後、自動車整備士国家試験制度の改定が行われるため、それを見据えてカリキュラムを検討していく予定である。資格取得については、多くの資格を問わせること目標としていく。合格した成功体験を積み重ねることで、勉強意欲の向上も見込まれるため、取りやすい資格からチャレンジさせレベルアップを図っていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

自動車業界の人材ニーズに従い、即戦力となれる人材を育てるために、企業と連携を密にして基本作業から、さらにステップアップした新技術などの教育を行う。また、現場での作業に必要とされる、安全作業や時間管理ということも意識した実習を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課責任者と教科担当教員と日産東京販売の派遣講師が実習前に打ち合わせを行い、実習内容や学修成果の評価指標等について定める。実習授業においては、担当教員が日常的な指導をしつつ企業からの講師が専門性の高い技術的な指導を行うなど、2名が連携を取りながら授業を展開していく。実習授業の最後に実技試験を行い、企業講師の評価を踏まえ担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
エンジン整備	エンジン脱着作業と各部位のオーバーホールを行う	日産東京販売株式会社
シャシ制御Ⅰ (AT/ABS)	ABS、ATに関する実際の制御方法を学ぶ	日産東京販売株式会社
シャシ制御Ⅲ(オートエアコン/エアバック)	オートエアコン、エアバックに関する実際の制御を学ぶ	日産東京販売株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校教職員研修規定により、教職員が、職務を円滑に遂行するために必要な能力、資質の向上を図るために研修計画を策定し、実施する。研修を行うに当たっては、関連企業・団体等と連携し、専門分野の知識、技術等の向上を図るとともに、授業および学生指導に対する指導力等の向上を図るものとする。実施においては、校内研修、校外研修、自己啓発など企業と連携した内容を盛り込み組織的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日産技術講習会	連携企業等:	日産自動車(株)
期間:	8月6日	対象:	教員
内容	日産先進技術に関する体感講習		
研修名:	いすゞ自動車企業セミナー	連携企業等:	いすゞ自動車(株)
期間:	8月1日	対象:	教員
内容	いすゞ製品の先端技術、工場見学		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専修学校教員教職課程研修	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	6月14日～11月15日(全25日間)	対象:	教員
内容	指導法(職業教育論、教育の目的、カウンセリング法など)		
研修名:	JAMCA教職員夏季研修	連携企業等:	全国自動車大学校整備専門学校協会
期間:	7月30日～8月2日	対象:	教員
内容	指導法(コーチング、問題の共有、解決方法など)		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日産技術講習会	連携企業等:	日産自動車(株)
期間:	8月21日	対象:	教員
内容	日産先進技術に関する体感講習		
研修名:	いすゞ自動車企業セミナー	連携企業等:	いすゞ自動車(株)
期間:	8月6日	対象:	教員
内容	いすゞ製品の先端技術、工場見学		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専修学校教員教職課程研修	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	6月13日～11月14日(全25日間)	対象:	教員
内容	指導法(職業教育論、教育の目的、カウンセリング法など)		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校教育法及び学校教育法施行規則に基づき、校内自己点検評価委員会が行った評価の結果について、評価及び結果の公表を行うために、学校関係者評価委員会を設置し、委員会は、自己評価委員会が行った評価について評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、関係者の理解推進・連携協力による学校運営の改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材等
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	地域との連携
(11)国際交流	無し

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者から指摘のあった「コミュニケーション能力向上」に関し、実習授業において積極的なロープレを導入して展開した。また、「教員の指導力向上」を目的に今年度も2名の教員を東京都専修学校教員教職課程研修に参加させ、学生カウンセリングや授業に関する実践的技術知識向上を図った。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
舟橋 正晴	トヨタモビリティ東京(株)人事部 キャリア成長推進部 人材開発室 リクルートグループリー	令和6年5月1日～令和8年4月30日(2年)	企業等委員
西島 大貴	日産東京販売(株)人事部次長	令和6年5月1日～令和8年4月30日(2年)	企業等委員
岩本 瞬	877motorsport 代表	令和6年5月1日～令和8年4月30日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.taus.ac.jp/kaiji>

公表時期: 8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対して、学校関係者評価委員による会議とは別に、校長代行・幹部教員が各企業別に年1・2回の会合を持ち意見交換を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	無し
(11)その他	無し

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.taus.ac.jp/kaiji>

公表時期: 8月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			エンジン理論	筒内直接噴射エンジンの構造と作動を理解するとともに、自動車用エンジンがこれまでどのような経緯で開発、実用化されてきたか、各メーカーが市販化したエンジンを例に紹介する。	1 ①	9.8		○			○		○		
2	○			自動車工学	機械工学、材料力学、機構学、物理、熱力学、流体力学等の理論を用いて自動車に採用されている理論を中心に講義を行い、基礎理論を理解させると共に演習も行う。	1 ①	13		○	△		○		○		
3	○			E V	電気自動車の構造・作動・整備及び高電圧部位の取扱い注意事項についてまた、最新E V事情についても学ぶ。	1 ①	9.8		○			○		○		
4	○			燃焼・潤滑理論	燃料と燃焼に関する基礎理論と現在進められている燃料の改善状況を解説し燃料を取り巻く問題点を解説する。	1 ①	9.8		○			○		○		
5	○			エンジニアリング・グラフィック	自動車に関連した図面や特製図への理解力を高めることを目的に自動車性能線図等の作成を行う。	1 ①	9.8		○	△		○		○		
6	○			エンジン電子制御Ⅰ	各センサによるエンジン制御方法と故障原因探求方法を理論的に勝つ実戦的な手法を用いて解説し、理解させることを目的としている。	1 ①	28		○			○		○		
7	○			ジーゼル・エンジン整備	小型ジーゼルエンジンのコモンレールシステムについて構造・機能・作動・整備・故障診断を解説する。	1 ①	9.8		○			○		○		
8	○			シャシ電子制御Ⅰ	A T、C V Tに関する基礎理論と故障探究に関する手法を解説し理解させることを目的とする。	1 ①	28		○			○		○		
9	○			電子整備機器	デジタルマルチメータ、オシロスコープ、の使用方法を理解する。	1 ①	15		○			○		○		
10	○			産業研究Ⅰ	自動車業界の第一線で活躍するゲストスピーカーを招聘し、現代のマネジメント、自動車業界の動きの解説を行う。	1 ②	23		○			○			○	
11	○			マーケティング戦略	実践的な自動車業界の企画、販売、プレゼンテーション、市場調査などを具体例を挙げながら顧客の行動原理とマーケティング原理を解説する。	1 ② ③	22		○			○			○	
12	○			高分子材料	高分子とは何かを合成、構造、物性、成形性から紹介し、高性能化とリサイクル化の開発指針を与える。	1 ②	14		○			○			○	
13	○			先進材料	アルミニウムの特性と実際の使用例を挙げて解説する。	1 ②	14		○			○			○	
14	○			体育実技	自動車整備士にとって必要不可欠な基礎体力の向上と団体スポーツを通して組織の中での個の力の発揮を促す体験を行う。	1 ②	5.6				○		○	○		
15	○			M C 高度技術	各種モジュールの比較を行いながら、二輪車の整備士として必要な知識を養成する。	1 ②	31		○			○		○		

16	○		エンジン電子制御Ⅱ	各センサによるエンジン制御方法と故障原因探求方法を理論的に勝つ実戦的な手法を用いて解説し、理解させることを目的としている。	1 ②	34		○			○		○				
17	○		C N G	圧縮天然ガスを燃料とするCNG自動車のエンジン構造及び制御また、整備方法について学ぶ。	1 ②	9.8		○			○		○				
18	○		シャシ電子制御Ⅱ	A B S、V S C Sに関する基礎理論と故障探究に関する手法を解説し理解させることを目的とする。	1 ②	34		○			○		○				
19	○		シャシ電子制御Ⅲ	E P Sに関する基礎理論と故障探究に関する手法を解説し理解させることを目的とする。	1 ②	15		○			○		○				
20	○		電装構造Ⅰ	電気計測、エアバッグ、オートエアコンに関する基礎理論と故障探究に関する手法を解説し理解させることを目的とする。	1 ②	18		○			○		○				
21	○		エンジンT S	OBD、車載ダイアグノシス機能などを駆使してエンジンの電子制御装置における高度診断作業を学ぶ。	1 ②	15		○			○		○				
22	○		環境・安全	自動車と自動車整備を取り巻く地球規模の環境保全のあり方と整備に関する安全作業を理論的に学ぶ。	1 ②	13		○			○		○				
23	○		店舗経営	自動車販売会社の経営理念を具体的に解説し、自動車ディーラーが求められる業務内容について検討する。また、サービス業務とセールス業務の関連から顧客満足度の実践について学ぶ。	1 ③	8.4		○			○		○				
24	○		制御理論	自動車に用いられている電子制御の基本について理解する。マイコン、センサ、アクチュエータの個々の特性と診断の基準となる電圧を理解する。	1 ③	18		○			○		○				
25	○		電装構造Ⅱ	エアバッグ、プリテンショナーシートベルトに関する構造、機能、点検の基礎理論と故障探究に関する手法を解説し理解させることを目的とする。	1 ③	15		○			○		○				
26	○		ハイブリッド・ビークル	新しい形のパワーモジュールの構成と制御システムについて学び、今後ますます増加するハイブリッド・カー技術に対応できる力を養う。	1 ③	9.8		○			○		○				
27	○		検査	道路運送車両の保安基準に基づいた各検査基準とその良否の判断を具体的事例より理解させる。	1 ③	9.8		○			○		○				
28	○		法規	道路運送車両の保安基準に基づいた各検査基準とその良否の判断を具体的事例より理解させる。	1 ③	13		○			○		○				
29	○		卒業研究	自動車技術、整備手法、教育に関する研究を指導教員の指導の元に研究を行い、自動車整備科で4年間学んだ集大成としてその成果を発表する。	2 ②	25					○		○		○		
30	○		自動車材料	市販車両の軽量材料の使用例を解説し従来の車両との比較を行う。	2 ①	7		○			○		○				
31	○		大型シャシ	大型車の電子制御式サスペンション、セミオートマチック、ABS等の構造・機能・作動・整備・故障診断を解説する。	2 ①	7		○			○		○				
32	○		シャシT S	OBD、車載ダイアグノシス機能などを駆使してシャシの電子制御装置における高度診断作業を学ぶ。	2 ①	7		○			○		○				
33	○		振動解析	自動車整備において難度の高いNVH関連の基礎理論とテストを用いた故障探究方法と効率のよい故障解決法を理解させる。	2 ①	9.8		○			○		○				

34	○		顧客サービス業務	サービスマン、フロントマンとしての顧客対応技術を学び、最終的には問診、概算見積もり、応酬話法を習得させる。	2 ①	9.8		○			○		○			
35	○		特別講義Ⅰ	1級自動車整備士の筆記試験に合格すべく国家試験対策講義を行う。	2 ②	129		○			○		○			
36	○		特別講義Ⅱ	1級自動車整備士の筆記試験に合格すべく国家試験対策講義を行う。	2 ③	84		○			○		○			
37	○		電子計測	デジタル・マルチ・テスト、オシロスコープ、メモリ・ハイコーダなど電子計測に必要な計測理論と作業について習熟する。	1 ①	29					○	○		○		
38	○		機械工作	旋盤、フライス盤を用いた鉄やアルミ材などの金属切削加工を行う。また、溶接技術も習得する。	1 ①	29					○	○		○		
39	○		エンジン整備	エンジン脱着作業と完全O/Hを行う。	1 ①	58					○	○		○		○
40	○		エンジン制御	エンジン電子制御装置に関する実際の制御方法を学ぶ。	1 ①	36					○	○		○		
41	○		シャシ制御Ⅰ	A B S、A Tに関する実際の制御方法を学ぶ。	1 ①	43					○	○		○		○
42	○		車体電装	整備要領書の配線図を用いて車両に関わる配線の整備作業を中心に行い、回路図の読解力と実際の配線作業に熟練する。	1 ①	36					○	○		○		
43	○		検査作業	小型車の車検整備作業を習熟する。	1 ①	43					○	○		○		
44	○		シャシダイナモ(2・4輪)	二輪車及び四輪車を用いてシャシダイナモの使用方法を学ぶ。	1 ②	43					○	○		○		
45	○		シャシ制御Ⅱ	E P Sに関する実際の制御方法を学ぶ。	1 ②	22					○	○		○		
46	○		シャシ制御Ⅲ	オートエアコン、エアバッグに関する実際の制御方法を学ぶ。	1 ②	43					○	○		○		○
47	○		E V 整備	電気自動車の構造・作動・整備作業について学ぶ	1 ②	22					○	○		○		
48	○		サービス業務	整備内容説明、問診を通してお客様への信頼度、満足度を向上させる接客対応・応酬話法技術を学ぶ。	1 ②	43					○	○		○		
49	○		大型車両整備	エアブレーキ、エアサスペンション等のエアコントロールと機械部分の構造・作動を学ぶ。	1 ③	43					○	○		○		
50	○		M C 重整備	エンジン、サスペンション、フレーム等の整備を通して高難度の整備に対応できる技術を身につけさせる。	1 ③	43					○	○		○		
51	○		総合診断Ⅰ	1級自動車整備士に要求されるエンジン電子制御装置に関する診断作業を効率を高め実戦での即戦力性を高める作業を行う。	2 ①	86					○	○		○		

52	○		インターンシップ	企業内教育を通して、整備、受付、接客、問診、見積もり等より実践的な業務を社内でする。	2 ①	214				○		○	○				
53	○		定期点検整備	インターンシップで学んだ実践的な整備作業において個々人の技術目標を新たに設け、実践的な整備作業の技術向上を狙う。	2 ①	144				○	○		○				○
54	○		エンジン特性試験	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンの排出ガス特性、燃費特性、出力特性など様々なパラメータとの関連を学ぶ。	2 ②	22				○	○		○				
55	○		エンジン診断	エンジン電子制御装置に関する制御システムの不具合と故障の関連性を学ぶ。	2 ②	58				○	○		○				
56	○		シャシ診断Ⅰ	シャシ電子制御装置（ABS、AT）に関する制御システムの不具合と故障の関連性を学ぶ。	2 ②	58				○	○		○				
57	○		シャシ診断Ⅱ	シャシ電子制御装置（EPS、エアコン等）に関する制御システムの不具合と故障の関連性を学ぶ。	2 ②	22				○	○		○				
58	○		ハイブリッド車両整備	ハイブリッド車両の動力伝達機構について構造・作動を確認する。また、HVバッテリーへの充放電制御を学ぶ。	2 ②	14				○	○		○				
59	○		NVH診断	エンジン振動、ボディの振動、ステアリングの振動など不具合箇所の設定と故障診断を行う。診断には、振動分析機を使用する。	2 ②	14				○	○		○				
60	○		フロント業務Ⅰ	整備工場においてお客様の受け入れ、カルテの記入、問診、整備説明などの実践的な対応を学ぶ。	2 ②	29				○	○		○				
61	○		技術研究	卒業研究テーマを主体として、実車や教材で実験を行い、サービス・マニュアルにはない特性や法則を明確にする。	2 ②	86				○	○		○				
62	○		フロント業務Ⅱ	整備工場においてお客様の受け入れ、カルテの記入、問診、整備説明などの実践的な対応を学ぶ。	2 ③	36				○	○		○				
63	○		総合診断Ⅱ	1級自動車整備士に要求されるシャシ電子制御装置に関する診断作業を効率を高め実戦での即戦力性を高める作業を行う。	2 ③	86				○	○		○				
64																	
65																	
66																	
67																	
合計					63	科目	2136.2 単位（単位時間）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：全ての教科に合格していること。1. 2年次の履修時間（学科600時間、		1 学年の学期区分	3 期
履修方法：授業開始にあたり、出席を調査し出席簿に記録する。遅刻は当該授業（留意事項）		1 学期の授業期間	14 週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。